

# 幼児がすすんで遊ぶための工夫

## —戸外遊びを通して—

浦添市立沢岬幼稚園教諭 東江 すま子

### I テーマ設定の理由

「今日も赤チームが20対5で勝ったよ」と、フットベースボールを楽しむ子。「シーッ」と、ひとさし指を口に当てて「先生、ちょっと来て、ツバメがいるよ」と、教えてくれる子。すべり台にござを持ち込み、「キャー、キャーッ」と、ジェットコースターを楽しむ子。「バツタを捕まえに行ってきたーす」と、観察ケースと捕虫網を持って草むらに行く子。カレーライスや団子を作って、泥遊びを楽しむ子など、子ども達は戸外で、実に生き生きと遊んでいる。

その反面、十分遊べない子もいる。例えば、戸外遊びの経験の少ない子。室内遊びが好きで、戸外にあまり出たがらない子。言われたことはなんでもできるが、自分から遊びを見つけられない子。いつも教師の側にいる子。集団遊びの途中でスーッとぬけてしまう子などである。

また、遊んでいても遊びが単純な繰り返しで質的な深まりがみられなかったり、遊びの種類に広がりが見られないなどの状態もある。

家庭でも交通事情や両親の共働きのため、家の中で遊んでいたりと、グッピーのいる川や昆虫のたくさんいる山があっても、危険性がある入れないなどの事情で、子ども達は室内での遊びが多いようである。

教師として、どの子も「遊びの楽しさ」を体験してほしいと願っている。戸外に出てみると、自然の空気に触れ、太陽の光を浴び、空間を利用して大いに身体を動かすことができる。また、心は開放され、自然や遊具、友達とかかわって遊ぶことができる。戸外遊びにおいて、いろいろな体験を通して、幼児の探求心、創造力、知恵や、行動力が増していく。これまでの保育をみても戸外遊びによって、子ども達が得たものは大きかったと思う。

そこで、幼児の望ましい成長発達を促すものとしての戸外遊びの大切さを見直し、幼児が戸外で十分遊び込むようになるためには、幼稚園生活への位置づけをしながら、戸外で遊ぶための環境の工夫や、教師の授助のあり方として下記のような手だてをすればよいのではないかと考える。

- 一人ひとりの幼児を理解し、適切な援助をする。
- たっぷりと戸外で遊ぶ時間を確保する。
- 遊具、施設が効果的に活用できる場の工夫をする。
- 動植物の飼育栽培ができる場の工夫をする。
- 身の回りにある自然を利用した遊びの工夫をする。
- 友達関係が広げ・深められる遊びの場を設定する。
- 幼児が興味や関心を持って遊べる活動の工夫をする。(幼児と共に作る)

そうすれば、幼児は戸外で自分のやりたい遊びを見つけ、遊びを深め、遊び込むことができるのではないかと考え、本テーマを設定した。

## II 戸外遊びの意義

遊びの教育的意義は、下記のようにあげることができる。

- ① 身体の各器官や運動能力を発達させる。
- ② 意欲や積極性、自主性などのパーソナリティーを発達させる。
- ③ 知的好奇心や科学的思考力、創造性の芽生えを養う。
- ④ イメージを広げ、表現力を養う。
- ⑤ 自己統制の能力や、ルール意識、道徳心などを養う。
- ⑥ 経験を広げ、知識、技能を身につける。
- ⑦ 緊張、ストレスを解消する。

教育的意義といっても、そのためにする遊びではなくて、幼児が夢中になって遊び込む、その中でさまざまな発達が促されていくということが、結果として生まれてくるのである。

遊びの場による違いを見てみると、次のような違いがみられる。

室内でできる遊び	戸外でできる遊び
歌をうたったり、楽器で遊ぶ。話をしたり、聞いたりする。絵を描いたり、製作をする。遊具で遊ぶ。巧技台で遊ぶ。絵本や紙芝居を見たり、作ったりする。リズム遊びをする。ダンスを踊ったり、体操をする。ゲームや、集団遊びをする。テレビ、映写を見たりなど	室内でできる遊びは、おおよそ戸外でもできるがそのほかに、セミ捕り、バッタ捕り、幼虫探し、オタマジャクシやカエル捕り、砂遊び、泥遊び、水遊び、山登り、探検、草花遊び、影踏みなど、戸外でなければできない遊びがある。また、小動物を育て、遊んだり、植物の栽培、運動遊びや集団遊びなどが、発展し、ダイナミックにできる。

しかし、室内遊びも戸外遊びも、遊びの意義を基本にしている。

そこで、戸外遊びによって、幼児に育ちやすいものを考えてみると、下記のようなことがいえるのではないか。

- ・自然とのかかわりの中で、感受性と観察力を養い、動植物への愛護の精神の芽生えを養うことができる。
- ・身体を動かすことの楽しさを味わうことができ、心身の発達を促すことができる。
- ・友達を求め、探し、遊びを決めて遊ぶことができる。  
友達関係が広がり、幼児同士の育ち合い、社会性を育てることができる。ルールの意義を認め従い、いろいろなルールを作って、遊ぶことができる。
- ・物と一緒に遊び、物を活かして遊ぶことができる。  
いろいろな素材を合わせたり、知恵を出し合って、新しい遊びが生まれ創造性を養うことができる。

これらのことは、森上史朗が「保育内容と幼児理解」で下記のように述べている幼児期に育てるべき基礎・基本の能力と一致するといえる。

- |                   |           |               |
|-------------------|-----------|---------------|
| ① 健康な心と身体         | ② よく動くからだ | ③ 感じる心・しなやかな心 |
| ④ 友達とのかかわり        | ⑤ 探求心と好奇心 | ⑥ 自然とのかかわり    |
| ⑦ 豊かな言葉とコミュニケーション | ⑧ イメージと表現 | ⑨ 生活の仕方       |
|                   |           | ⑩ 遊び          |

幼児の生活の中心は遊びであり、上にあげた能力はすべて遊びという土壌の中で、育ていくものである。これらのことから、幼児期に戸外でたっぷり遊び込ませてあげることが、望ましいといえる。

### Ⅲ 幼児理解

幼児の行動には、その幼児なりの意味がある。個々の幼児の行動は、その幼児の知能、感情、欲求、興味などの、内面的なものが表現されたものであるといわれている。教師は、幼児の表面に表れた行動を見て、表面的な理解をするだけでなく、その幼児は何を感じ、何を考えているのか、なぜそのような行動をとるのかと、その幼児の立場にたって、内面的な心理状態や、その幼児の特質を知ろうとするように努めなければならない。また、大人のイメージと幼児のイメージには違いがあることを知っておかなければならない。

幼児の内面的なものを知ることは、なかなか容易ではない。しかし、わかりたいという教師の姿勢、心構えが大切である。そうすることが、幼児が主体的に取り組む活動を成り立たせるための基本の一つであると考えられる。

幼児理解にはいろいろなやり方があるが、理解の対象、基本的な姿勢、方法をあげてみる。

#### 1. 幼児理解の対象

- ・ 幼児の心身の発達の実状の理解。
- ・ 幼児の行動のもとにある欲求・興味や生活経験の理解。
- ・ 幼児の個人的特徴とその形成基盤の理解

#### 2. 幼児理解・指導の基本姿勢

- 一人ひとりの特徴をとらえる  
幼児は身体的、精神的発達の個人差が大きい。一人ひとりの人格を認め、その長所に目をとめる。
- 肯定的な関心を寄せる  
幼児の行動そのものを肯定するのではなく、その行動の底に流れている感情の動きを肯定する。
- 幼児の生活に共感する  
幼児の立場にたった見方、考え方をしようと努力する。幼児が周りのものをどう感じ、どうとらえているかなど、幼児の気持ちになって理解するよう努める。
- 変容をとらえながらの指導  
どのような幼児が、どんなきっかけで、どのように変容したか。幼児の内面的な変容をとらえて保育を進める。幼児は、絶えず成長発達している。長い目で見つめていく必要がある。
- 可能性を見つめての指導  
幼児の中に潜在している能力の可能性を信じて、保育を進める。

#### 3. 方法

##### (1) 幼児とのかかわりの中での理解

- ・ 幼児と一緒に遊び、接する機会を多く持ち、一緒に体験しながら幼児の気持ちや考え、興味などを幼児から学び、幼児の気持ちになって考えられるよう努力する。
- ・ 朝の視診によって、その日の健康状態や心の状態を把握する。
- ・ 個々の幼児の言葉や行動を通して、幼児の欲求や興味を把握する。

- ・ 友達とのかかわり、グループ活動を通して、幼児の興味や欲求、社会性などを理解する。
- ・ 持ち物の始末や上下靴の履き替え、遊具の片付け、食事、挨拶、衣服の着脱、排泄、手洗いなどから、基本的な生活習慣の自立の程度を知る。

(2) 資料をいかしての理解

- ・ 幼児の家庭調査表、家庭訪問により生育歴、保育歴、病歴、家庭での教育方針、家庭での遊び、友達、親の養育態度、社会環境、通園路などを知ることによって、幼児の身体面、精神面、社会性、経験、現在の環境などを把握する。
- ・ 個人面談や、参観日などのちょっとした時間を利用して、家庭での様子や、心身の状態、友達関係をうかがい、知る。
- ・ 出席ノートの家庭からの連絡事項によって、その日の心身の状態や家庭の様子を知る。
- ・ その他必要に応じて、ソシオメトリー、社会生活能力検査、田研・田中ビネー知能検査、遠城寺発達検査などで、友達関係や知能の発達などを把握する。

こうしたいくつかの観点を総合させながら、幼児への理解を深めていき、次の指導の手がかりとする。予想や見通しをもって、遊びを展開していき、評価・反省を加えながらよりいっそう理解していく。そのためには、幼児の内面を見通した「実践記録」を、意識化して残すことも大切である。

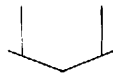
#### IV 戸外遊びの環境作り

##### 1. 環境作りの視点と配慮事項

###### (1) 環境作りの視点

- ・ 情緒の安定が図られる環境であること。
- ・ 教育課程の実施に十分機能する環境であること。
- ・ 幼児にとって、環境にかかわることの自由が、最大限に保障されていること。
- ・ 安全が十分に確保されている環境であること。

具体的な取り組みとして、



- ・ 遊具を整える。
- ・ 戸外で使える遊具をベランダや園庭に出す。
- ・ 遊びに使える草花を園庭に移したり、種類を増やして栽培する。虫を呼ぶために食草を栽培する。
- ・ 園庭にコロコロを出す。3個は固定する。
- ・ 遊戯室（プレハブ）の三分の一を倉庫として利用する。
- ・ 園庭に土山を作る。
- ・ 園庭に飼育小屋を設置する。
- ・ タイヤロケットを修理する。

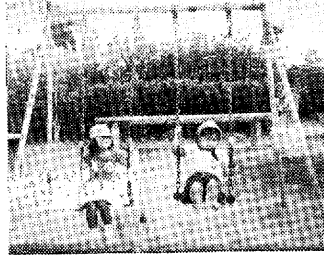
(2) 配慮事項として

戸外遊びに関する基本的生活習慣の確立を図る。

内 容	配 慮
<p>使った遊具や用具は、元の場所へ片付ける。 自分で使った物だけでなく、共同で使った物も片付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・砂や泥、土がついている場合は、落としてからたらいに入れて洗う。(園芸用スコップ、砂場セット、ままごと道具、ボールなど)</li><li>・ちりはちり箱へ入れる。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・遊具置き場を整理、分類する。</li><li>・カードに絵や名前を書いて張り、場所や個数を明示する。</li><li>・洗うためのたらいやタワシ、ホースなどを用意する。</li></ul>
<p>手が汚れた時、外から帰った時、小動物や虫類に触った後は手を洗う。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・洋服がぬれないように袖をまくる。</li><li>・強く出し過ぎないように、水量に気を付ける。</li><li>・石鹸をつけて洗うときは、水を止める。</li><li>・ハンカチでふく。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・毎日ハンカチを持つようにし、ハンカチには名前を書くように家庭に呼びかける。</li><li>・爪が伸びている幼児には、家で切ってくるように声かけする。</li><li>・クラス用の爪切りも用意して置く。</li><li>・ハンカチを忘れた幼児のために、クラス用タオルを用意しておき、貸してあげる。</li></ul>
<p>足が汚れている場合は洗う。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・靴下をぬいでから洗う。靴下は靴の中に入れておく。</li><li>・洗った足は、足用タオルでふく。</li><li>・靴は砂や土を落としてから、靴箱へ入れる。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ベランダの水道を使う。水道から廊下までの間にすのこを置き、その上でふくようにする。</li><li>・足ふきタオルを用意する。</li><li>・靴下にも名前を書くように、家庭に呼びかける。</li></ul>
<p>外から帰ったらうがいをする。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・三回ぐらいうがいをし、ハンカチで口をふく。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ハンカチの携帯を促す。</li><li>・クラス用タオルを用意して置き、忘れた幼児には貸してあげる。</li></ul>
<p>洋服がぬれていたたり、汚れている場合は着替える。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・洋服は表に返してからたたんで、しまう。</li><li>・ぬれた物は乾かす。</li><li>・汚れた物は、その日のうちに持って帰る。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・着替えは袋やバックに入れ、着替え掛けに掛けて置くようにする。</li><li>・着替えには名前を書くように家庭に呼びかける。</li><li>・洗濯紐や洗濯ばさみを用意し、自由に干せるようにする。</li><li>・汚れたり、ぬれた物を入れるためにビニール袋を用意しておき、自由に使えるようにしておく</li><li>・着替えを忘れた幼児には、園用の着替えを用意して置き、貸してあげる。</li></ul>

## 2. 園内の施設・設備

こわれたタイヤもなんのその、  
子ども達は遊びの名人です。



わたしたち、ブランコが大好きなの

コロコロに乗れたよ！  
こわくないよ。



うんとこしょ、どっこいしょ。  
砂は裸足でいい気持ち。



忍者のごとく。



ダンボール紙を敷いて  
シューッ。着地成功！



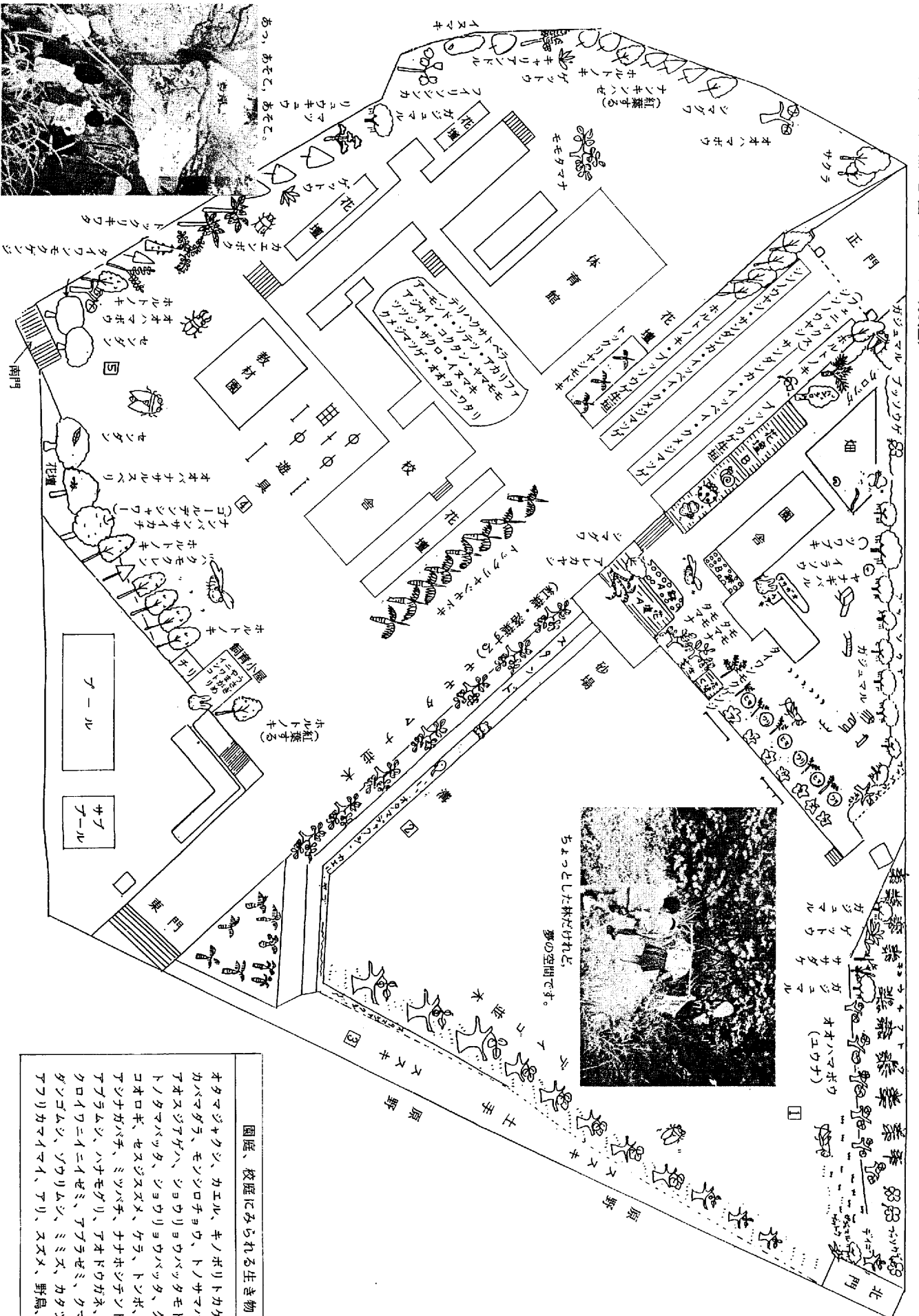
モモタマナの木は四季の変化が  
あり、子ども達の楽しい遊び場。



おいもの苗植え。園長先生に教わって。



3. 園内の自然地図 (1989.5.6月調査)



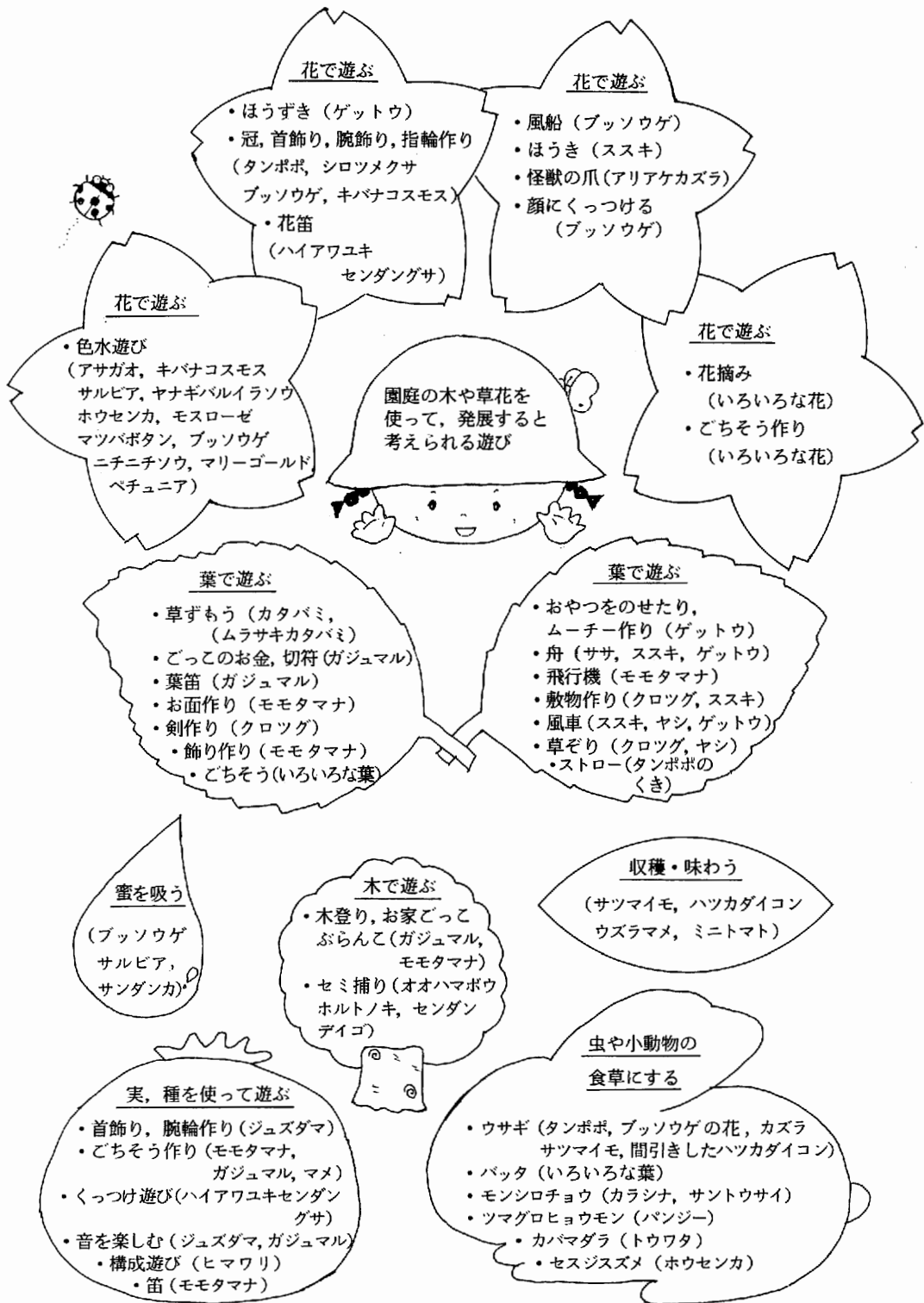
園庭、校庭にみられる生き物







- オタマジャクシ、カエル、キノボリトカゲ、
- カバネガタ、モンシロチョウ、トノサバツタ、
- アオアシタバ、シヨウリヨウバツタモドキ、
- トノタマバツタ、シヨウリヨウバツタ、クモ、
- コオロギ、セマジヌメ、ケラ、トツボ、
- アシナガバチ、ミツバチ、ナナホシテントウムシ、
- アブラムシ、ハチモグリ、アオドクガキ、
- クロイロニイゼミ、アブラゼミ、クマゼミ、
- ダシゴムシ、ソウリムシ、ミミズ、カタツムリ
- アフリカアゲハ、アリ、ヌメ、野鳥、ツバメ、


















5. 園内の草花を使って、発展すると考えられる遊び



		場	遊 び の 種 類	
園 小	学 中	運 動 場	サッカー、フットベースボール、ドッチボール、かけっこ、リレー、鬼ごっこ、縄遊び、綱引き、玉入れ、集団遊び	
		① 運動場の木・草	セミ捕り、バッタ捕り、探検、お家ごっこ	
		② 運動場の溝	オタマジャクシ・カエル・ヤゴ捕り	
	校 庭	③	土 手	土手登り、すべり降り、土手の上の探検
			⑤ 木	セミ・クワガタ・ハナモグリ捕り
		④	すべり台	すべる、鬼ごっこ
			ジャングルジム	 登る、鬼ごっこ
			ブランコ	 座りこぎ、立ちこぎ、二人乗り、こぎ競争、飛び降り
			安全ブランコ	 座り乗り、バスごっこ
			シーソー	 乗る
			遊 動 木	 座り乗り、バスごっこ
			飼 育 小 屋	ウサギやニワトリに餌を与える
	グ ロ ー プ ジャングル	 座り乗り、こぐ (回転が速くなると、飛ばされる危険性があるので、足をしっかり乗せるか、中に座るように指導する)		
園 外 (徒歩で 行ける 場所)	⑥ 沢 岨 拝 所 の 山	探検、木登り、木の枝ブランコ、セミ捕り 虫捕り、花摘み、草花遊び (おやつ・弁当会)		
	⑦ 沢 岨 公 民 館 公 園	固定遊具で遊ぶ、木登り、鬼ごっこ (おやつ・弁当会)		
	⑧ ゲ ー ト ボ ー ル 場	草転がり、鬼ごっこ、集団遊び、縄遊び、ゴム段跳び、ボール遊び (おやつ・弁当会)		
	⑨ 昭 和 薬 科 大 附 属 校 体 育 館 裏	バッタ捕り (おやつ・弁当会)		
	⑩ チ ョ ン ダ 公 園	固定遊具で遊ぶ (パイプラインや途中の道の交通量が多いので、安全面に留意する。 弁当会)		
	⑪ 宮 城 公 園	固定遊具で遊ぶ、草すべり、草転がり、鬼ごっこ、木登り、セミ捕り、バッタ捕り、散歩、集団遊び、 (お別れ遠足) (パイプラインや途中の道の交通量が多いので、安全面に留意する)		
	その他	園周辺を散歩したり、宮城公園に行く途中に、牛や豚を見たりすることができる。春の遠足や秋の遠足は、バスに乗って漫湖公園や動物園などに行く。		

6. 戸外遊びの場による分類

場		遊 び の 種 類	
園	砂 場		山作り, トンネル作り, 川作り, 落とし穴作り, 宝探し相撲, 貝殻集め, 貝殻の首飾り作り, ごちそう作り, アイスクリュー作り, ケーキ作り, レストラン, 迷路
	す べ り 台		すべる, 鎖を登る, 鬼ごっこ, サメごっこ, お家ごっこ, 戦いごっこ, ジェットコースター, レストラン
	雲 梯 棒		渡る, 上に登って歩く, ブランコ, アスレチック
	登 り 棒		登る, お家ごっこ
	タイヤロケット		手を使って登る, ロープで登る。ロープで回る, 高鬼
	一 本 橋		渡る, ジャンケンゲーム
	鉄 棒		飛び乗り, ぶら下がり, コウモリ, 前回り, 逆上がり, ブランコ
	ブ ラ ン コ		座りこぎ, 立ちこぎ, 二人乗り, こぎ競争, 飛び降り
	つ り 輪		ぶら下がる, 回る, 飛び降り
	タ イ ヤ		タイヤ跳び, タイヤ跳びリレー, 高鬼ごっこ
	バ ラ ソ ル		色水遊び, ごちそう作り, レストランごっこ, お家ごっこ
庭	広 場	 	つかまえ鬼, 高鬼, 影踏み, 氷鬼, 色鬼, 円鬼, 子とろ鬼, 手つなぎ鬼, ネコとネズミ, 鳥鬼, 昼か夜か電信か, あぶくたった, かごめかごめ, かくれんぼ, 狼さん今何時, だるまさんがころんだ, はないちもんめ, でーじぬぐんかん, じゃんけん陣とり, ボール送りゲーム, ボール投げ, ドッチボール, サッカー, フットベースボール, 缶下駄乗り, 竹馬乗り, コロコロ乗り, ローラーゲーム, タクシー, 縄跳び, 大波小波, お嬢さんお入り, 玉入れ, かけっこ, 綱引き, リレー, バランスボール乗り, フォークダンス, ゴム段跳び, 跳箱跳び, 巧技台遊び, マット遊び, フープ跳び, ケンパー, 電車ごっこ, どんろんて遊び, 地面に絵を描く,
	草 花 ・ 葉		虫捕り, ウサギと遊ぶ, 幼虫探し, 花の蜜を吸う, 花摘み, 草笛・花笛遊び, ごちそう作り, 首飾り作り, 指輪作り, 腕輪作り, 花びらを顔にくっつけて遊ぶ, 種を洋服にくっつけて遊ぶ, 葉っぱずもう
	畑 ・ 花 壇		幼虫探し, ミミズ探し, バッタ捕り, イモ捕り, 種蒔き, 栽培
	木		木登り, ブランコ, お家ごっこ
	ベ ラ ン ダ		絵を描く, 色水遊び, レストランごっこ, お家ごっこ, 粘土遊び, 水遊び, シャボン玉遊び, フィンガーペイント, (おやつ・弁当会)

## V 戸外ですすんで遊ぶための、教師の基本的な姿勢

職員の体制作りは、園の教育目標にある幼児像を目指す。

### 1. 教師の姿勢

- 一人ひとりの幼児を、かけがえのない存在として受け止める。  
どのような幼児も、ありのままの姿として肯定的に受け止める。常に幼児の感情と共感しつつ指導する。「今、この子は何を考えているのだろうか」と、謙虚に幼児の心に耳を傾ける努力をし続ける。
- 幼児一人ひとりを愛し、信頼関係を結ぶ。  
教師との一対一の信頼関係を結び、クラスや園が安定した場になり、自分のやりたいことがやれ、言いたいことが言えるようにする。そうすると、幼児は遊びのイメージを持ち、自分の発想によって主体的に遊べるようになってくる。
- 全職員で全幼児を育てる。園長を始め、全ての職員が、どの幼児にもすすんでかかわり、育てるようにする。
- 戸外遊びにおいてはオープンで活動するので、全職員で指導案を立て、連携をとりながら指導にあたるようにしていく。  
遊びの展開では、待つ姿勢でゆったりとかまえ、幼児から出てくる遊びのイメージ、発想を大切にし、その遊びを幼児と共に育てていくようにする。
- 日々、自分自身の保育を振り返って反省し、また、幼児の個人記録を大切に、明日の指導の手だてとする。
- 保育者全体が、共に喜び、共に涙し、思いやりを持ち、協力し、いたわり合うような人間関係を作る。

### 2. 保育後のミーティング

毎日保育終了後、職員室にて、ミーティングを持つ。

各教師が、遊びの様子やかかわった幼児、活動内容、友達関係、基本的な生活習慣、気づいたこと、感じたことを述べ合う。そうすることによって、一人ひとりの幼児の現実をとらえ合い、理解を深めて、今後の各教師の個々の幼児に対する姿勢を話し合うことができる。

また、園全体の動きを知り、昨日から今日、今日から明日への活動のつながりをもたせることができる。

## IV 教師の援助

幼児が戸外においてより意欲的に遊び、いろいろな経験をし、望ましい方向に変容できるように援助する。

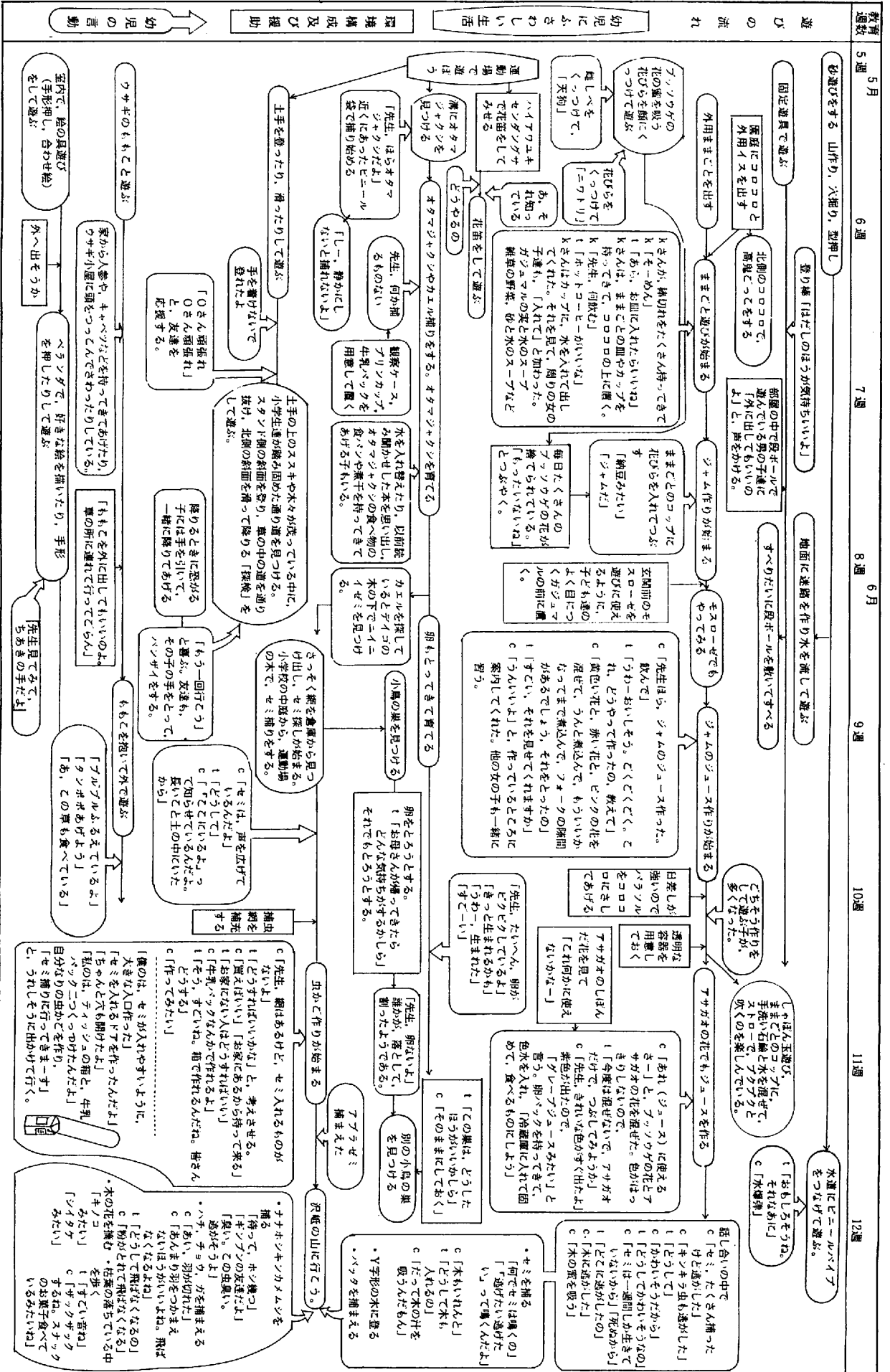
- 経験を広げる………具体的・直接的体験を取り入れ、遊びや行動を拡大・発展させる。
- 思考を深める………語彙を増やし、理解力・判断力・表現力をつけさせる。
- 創造性を養う………発想を受けとめ、創意工夫を認める。
- 友達関係を広げ、深める………友達の存在、良さを認められるようにする。友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わわせるようにする。
- 内面性を育てる………意欲、好奇心、充実感、粘り強さ、優しさ、親切、思いやりなどを育てる。

方法として

- 環境を構成する………幼児が遊びたくなるような素材や場の構成、幼児が工夫したり、考えたりすることのできる環境の工夫する。同時に、活動することが楽しくなるような雰囲気、教師自身の行動で作っていく。  
環境の構成は固定したものでなく、教師が幼児と生活を共にしながら、常にその環境が幼児の生活に意味を持つように再構成していく。
- 言葉かけをする………ほめる。励ます。誘う。けちをつけたり、わざとまぜっかえして考えさせる。
- つぶやく………遊びの状態をごく自然にさりげなく言葉に出すことによって、遊びに対する期待を伝えたり、遊びや友達をつなげたりする。
- 助ける………モデルを示す。ヒントを与える。
- 共感する………教師も一緒になって遊ぶ。共に喜ぶ。発想を認める。温かく見守る。笑顔でうなずく。慰め、励ます。

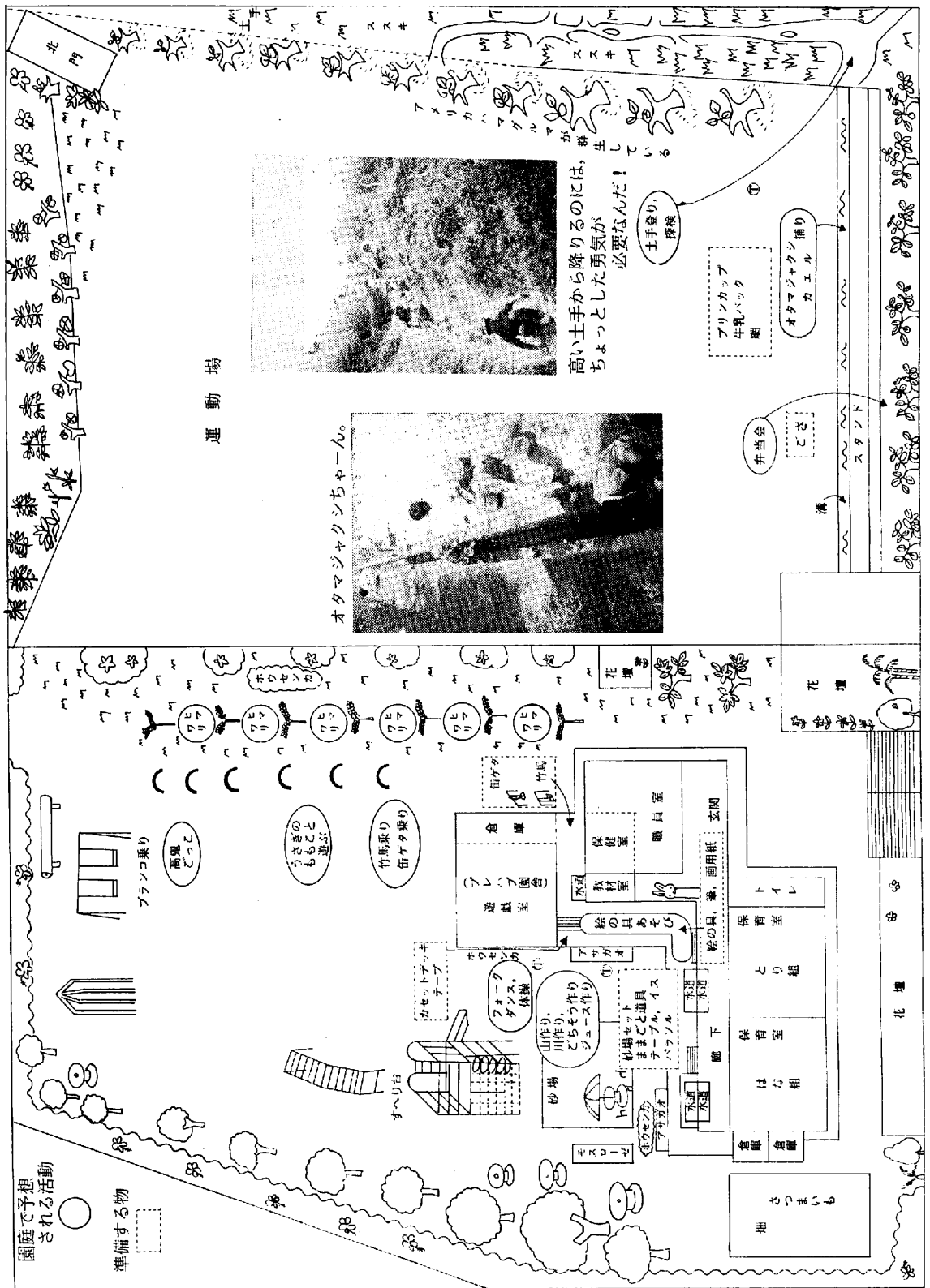
Ⅶ 活動の展開

1. 戸外遊びの展開



## 2. 実践事例 戸外遊び

平成元年 6月6日(火)		とりぐみ 男児17名 女児17名 計34名
幼児の姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登園と同時に、「オタマジャクシ捕りに行っていい」と、遊ぶ目的を持っている幼児、草花や砂を使って遊ぶ幼児が多い。</li> <li>・遊びが軽々として持続しない幼児、戸外で遊びたがらない幼児もいる。</li> <li>・使った道具の片付けや、自分の持ち物の始末ができていない幼児もいる。</li> <li>・戸外では、どのクラスの幼児も一緒になって遊び、仲が良い。</li> </ul>	
ねらい	戸外で、自分の好きな遊びを楽しむ。	
時刻	予想される幼児の活動	援助並びに留意点
8:15	登園する 朝の活動をする 戸外で好きな遊びをする ごちそう、ジュース作り 草花・砂・水を使ってごちそう、ジュース作りを楽しむ 砂山、迷路作り 砂や、水の感触を楽しむ 竹馬乗り バランスをとりながら、乗れるように頑張る。 フォークダンスや体操をする 「海賊体操」「ディズニー体操」「タタロチカ」 リズムに合わせて、ダンスや体操を楽しむ。 絵の具で遊ぶ 絵の具に親しみ、好きな絵を描く。 オタマジャクシ、カエル捕り オタマジャクシやカエルに親しみ、捕ることを楽しむ 土手登り、探検をする 土手登りや、探検を楽しむ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今日も1日楽しく過ごせるように、挨拶や言葉を交わしながら温かく迎え入れる。</li> <li>・視診や出席ノートの連絡事項によって、心身の状態を把握する。</li> <li>・一人ひとりの遊びを認め、更に意欲的に遊べるようにする。</li> <li>・遊びを見守りながら、小さなつぶやきを拾い、共感し、必要に応じて援助する。</li> <li>・遊びを見つけれない幼児がいたら、話しかけながら興味、関心を探り、遊びを見つけて遊ぶことができるよう、手助けする。</li> <li>・「Kさんは、なにで遊ぶのか」「オタマジャクシは好きかしら」「Oさんたちの作っているジュースを見てみようか」などと誘ったり、友達が遊んでいるのを見せたり、教師も一緒に遊んだりする。</li> <li>・一緒にいる友達に関心を持たせたり、将来ごっこ遊びに発展できるように声をかける。</li> <li>・「まあ、本物のジュースみたい。」「ここでジュースを飲ませてくれるのかな」「みんなここの人なの」</li> <li>・友達と協力しているところや、アイディアを認める。</li> <li>・「OさんとOさんが作ったの」「これはおもしろそうね」</li> <li>・求められたり、必要に応じて、手助けする。</li> <li>・「前に倒れるようにするといいのよ。1・2・3・・・」と、支えてあげたり、「Oさんのやるのを見てごらんさい」と、モデルを示したりする。</li> <li>・「ヤクシ」と、みんなで元気に声をかけて、楽しく踊れるようにする。</li> <li>・回るときは、しっかり手をつなぐようにする。</li> <li>・「お友達とぶつからないようにしてね」と、間隔に気づかせるようにする。</li> <li>・一人ひとりの絵を認め、喜んで描けるように励ます。</li> <li>・「これは、誰の顔かしら」「楽しそうね」「うわー、きれいな色ですね」などと声をかける。</li> <li>・「何匹捕れたかな」「Oさんは、捕まえるのが上手ですね」と声をかけ、意欲を出させる。</li> <li>・小さな生き物にも命があること、大切にしなければいけないことを、必要に応じて、気づかせていく。「まあ、かわいい。赤ちゃんね」「お水は、入っているかな」</li> <li>・安全に留意しながら、教師も一緒に楽しむ。降りるときには、ゆっくり降りるように声をかける。</li> <li>・勇気を讃え、自信につなげる。「Oさん、すごいですねー、全部行けたわね。」</li> </ul>
10:15	片付けをする 自分が使った物だけでなく、みんなで使った物も片付ける。 手洗い、うがいをする 汗をふいたり、着替えをする	<ul style="list-style-type: none"> <li>・片付けの必要性、物を大切にすることがわかるようにする。</li> <li>・片付けのできていない幼児は、呼んで、「この竹馬は片付けないとどうなるかな」「気持ちよくなったね」と、教師も一緒になって、最後まで片付けるようにする。</li> <li>・竹馬の紐が結べない幼児には、結び方を教えてあげる。</li> <li>・絵は、ロッカーの上で、乾かす。</li> </ul>
11:00	弁当会をする	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スタンドのモモタマナの木の下で、食事する。</li> </ul>
12:00	今日遊んだことについて話し合う 先生や、友達の話の聞いたり自分の思っていることを話す	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遊んだものの名前をあげ、手を挙げさせたり、自分で言わせ、どんな遊びをしたか知る。</li> <li>・一人ひとりの気持ちを受け止め、明日へのつながりをもたせる。</li> <li>・「Oさんは、ジュースを作ったのね。先生も見ただけどおいしそうだったわ。明日、飲ませてくれるかな」</li> <li>・友達の話の聞くことによって、「自分もやってみたい」という気持ちを持ち、また、友達存在、良さを認めていけるようにする。「Oさんはおもしろいことしていたわね。皆さんに教えてもらえるかな。」</li> </ul>
12:30	降園の準備をし、降園する	



運動場



オタマジャクシちゃん。



高い土手から降りるのには、ちよっとした勇気が必要なんだ!

土手登り、探検

プリンカップ牛乳パック

オタマジャクシ作りカエル

井当会

ごさ

スタンド

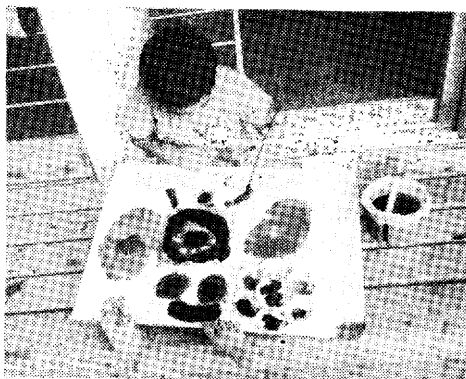
溝

庭園で予想される活動

準備する物

### 3. 反省と考察

- ・ 広場での鬼ごっこやブランコ乗り、砂場での遊びはあまり見られなかった。それは、陰がなく暑かったことと、オタマジャクシ捕りに、子どもたちの興味が強かったせいだと考えられる。
- ・ いつもは遊びを転々としているKさんが、今日は乗り物の本を見つけて離さず、ベランダでずっと見ていた。乗り物にとっても関心があり、名前も良く知っている。これをもとに今後、遊びが広がり、友達にかかわっていけるような指導の手だてを考えていきたい。
- ・ 部屋の中で、数名の男児が段ボールで遊んでいたのも、「外に出してもいいのよ」と声をかけると、すべり台の所に持っていき、ジェットコースターのようにすべって遊んだ。戸外へ目を向けるような言葉かけをしたことは良かった。また、幼児の発想の良さに感心する。これは動きがあり、大勢で楽しめる遊びである。
- ・ ジュース作り、ごちそう作りでは、暑かったので途中からテーブル（コロコロ）、椅子、パラソルを出したら、子ども達は喜んで、人数も増えて遊びを盛り上げることができた。透明な容器があると、イメージが広がりもっと遊びが発展すると思われる。ままごと遊びは室内でも楽しめるが、戸外に出すことによって、砂や水、草花などの自然の材料が増え、遊びが広がると思われる。
- ・ フォークダンスや体操の所では、カセットの操作のできる子がいて自分達で曲をかけたりしていたが、音を大きく出していたので、音量調節にも気づかせたい。
- ・ 絵の具遊びでは、どの幼児も自分のイメージでのびのびと、また集中して描いていた。手に絵の具をぬって、オタマジャクシ捕りをしている友達を驚かしたり、追いかけてごっこを楽しんでいる幼児もいた。戸外でものびのびとした表現ができるのではないかな。
- ・ オタマジャクシ捕りをしていると、デイゴの木の下でニイニイゼミを見つけ、さっそくセミ探しが始まった。その途中、木の枝に小鳥の巣を見つけ、子ども達はそれをとりたがったが、小鳥のお母さんの気持ちを考えさせ、そのままにして置くことにした。このような機会を逃がさず、親子のかかわりに気づかせたい。
- ・ 土手登りや探検では、友達を応援したり、降りることができた友だちの手をとって、共に喜ぶ姿がみられた。これからも友達関係が広がり、深まっていけるように援助していかなければならない。探検は、好奇心、探求心を育て、高い土手を登ったり降りたりすることによって、成功感を味わうことができる。今後、迷路やおばけ屋敷、ごっこ遊びなどに発展していく土台となるであろう。



ベランダのすのこの上で



コロコロの上でおいしそうにごちそう作り。



## Ⅷ 研究の成果と今後の課題

### 1. 研究の成果

- ・ 戸外遊びの意義を見直し、幼児理解の大切さ、援助についても深く考えることができ、再確認することができて良かった。戸外に出たがらなかった幼児、汚れることに抵抗のあった幼児が、戸外に出はじめ少しずつ遊べるようになってきて、「僕が考えたんだよ」「おもしろい」「先生、一緒に遊ぼう」と、意欲が出てきている。
- ・ 子ども達は、「今日は何をして遊びたい」という目的を持って登園し、おやつや弁当の時間までたっぷり遊ぶようになった。遊具を整理したり、使いやすいうように園庭に出したり、遊びに使える花を園庭に移動したことなどによって、例年より戸外遊びを活発にすることができ、環境作りの大切さを確認することができた。
- ・ セミやバッタなどをたくさん捕まえたが、子ども達は、帰りに木に逃がすようになった。オタマジャクシやカエルを捕ったり、育てることによって、また、二回にわたる小鳥の巣の発見などによって、小さな生き物の命に気づき、大切にしようとする心が育ちつつある。
- ・ 戸外でオープンで遊ぶことによって、また、教師も一緒に遊ぶことにより、友達関係の広がりができ、どのクラスの幼児とも、どの教師とも自然に話したり、遊べるようになった。
- ・ 遊びの範囲が園庭、運動場、校庭、園外まで広がり、その中でいろいろな「なまの体験」をし、子ども達の経験を広げることができた。土手が土地造成によってハブのいる危険性がなくなり、自然のスリルのある遊び場になったことも大きな収穫である。

### 2. 今後の課題

- ・ これからも幼児が戸外で意欲的に遊び、楽しい園生活が送られるように、一人ひとりの内面の理解に努め、援助していくように実践研究を深めていきたい。
- ・ 遊びの状態を把握し、幼児と一緒に片付けながら、ひとつの遊びが終わったら片付けをしてから次の遊びに移るように習慣づけさせたい。
- ・ 土山や飼育小屋の設置、遊びに使える草花の栽培をして、園庭の充実を図っていきたい。
- ・ 地域の中から保育に活かせる場所や物を調査し、園外保育マップを充実させ、活かしていきたい。
- ・ これまでの実践を踏まえて戸外遊びを更に充実させ、年間計画の見直しと作成をしていきたい。

### おわりに

楽しい園生活の主体は幼児であり教師である。保育は幼児と教師の相互作用による創造活動であることそれゆえに教師の感性、主体性、創造性の必要が、今、私の胸に強く迫っている。幼児を愛し、一人ひとりの心の育ちに目を向け、幼児に学び幼児を生かす、そのような保育をし続けていきたい。

これまでの四か月の研究期間、人的にも物的にも恵まれ、無事修了することができました。浦添市教育委員会の指導主事の先生方、具志川教育研究所の主事の先生方、そして、陰ながら支えて下さいました幼稚園の園長、職員の皆様に心から感謝申し上げます。

### 主な参考文献

森上 史朗	幼児理解と保育内容	ひかりのくに	1985
岡田 正章・森上史朗	保育実践用語事典	ぎょうせい	
西久保礼造	観察法による幼児理解	ぎょうせい	1977
森上史朗・大場幸夫・吉村真理子	保育実践を見る目	フレーベル館	1988
鳴門教育大学付属幼稚園	子どもと創る保育	明治図書	1987
池原 直樹	沖縄植物野外活用図鑑	新星図書出版	1984
東 清二他	沖縄昆虫野外観察図鑑	沖縄出版	1987
山口大学教育学部付属幼稚園	研究紀要（16）	山口大付属幼稚園	1988
具志川教育研究所	研究紀要 第9号—3	具志川教育研究所	1988